

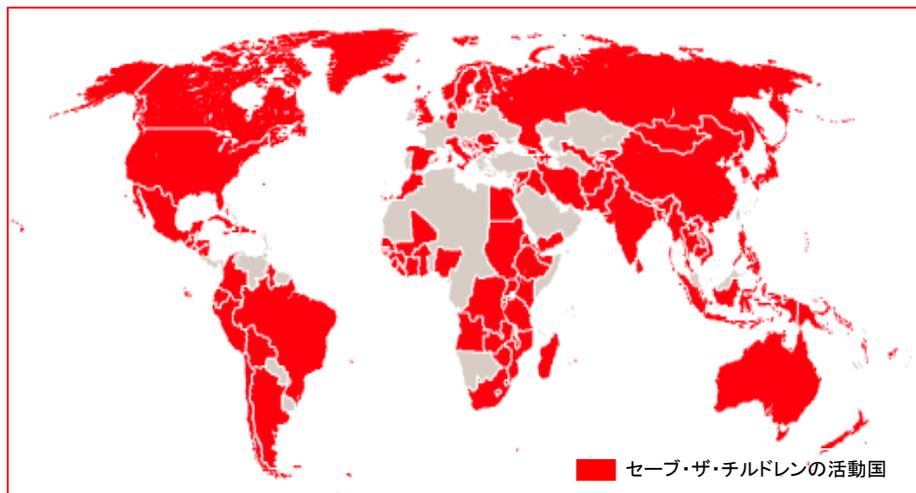
# 子ども保護の視点

レバノンにおけるシリア難民の子ども保護の経験から



公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン  
海外事業部 西口祐子  
2018年4月21日

# セーブ・ザ・チルドレンは日本と世界で子どもの権利を推進する団体です。



## 世界最大のネットワーク

セーブ・ザ・チルドレンはグローバルに120カ国以上で活動を実施するインフラを構築し、子ども向けのNGOの中で、世界最大のネットワークを築いています。

### 加盟国 合計 30カ国

欧州:	アイスランド、イギリス、イタリア、オランダ、スイス、ドイツ、スウェーデン、スペイン、デンマーク、ノルウェー、フィンランド、ルーマニア、リトアニア
米州:	アメリカ合衆国、カナダ、グアテマラ、ドミニカ共和国、ブラジル、ホンデュラス、メキシコ
大洋州:	オーストラリア、ニュージーランド、フィジー
アジア:	日本、韓国、インド、香港
アフリカ及び中近東:	スワジランド、ヨルダン、南アフリカ

### 活動支援国 合計 120カ国以上\*

欧州	アルバニア、アルメニア、アゼルバイジャン、ボスニア・ヘルツェゴビナ、ブルガリア、クロアチア、エストニア、グルジア、グリーンランド、ラトビア、モルドバ、ロシア、セルビア・モンテネグロ
米州:	コスタリカ、キューバ、エルサルバドル、ハイチ、ニカラグア、アルゼンチン、ボリビア、ブラジル、チリ、コロンビア、エクアドル、パラグアイ、ペルー、ウルグアイ、ベネズエラ
大洋州:	パプアニューギニア、ソロモン諸島、バヌアツ共和国
アジア:	インドネシア、カンボジア、タイ、中国、フィリピン、ベトナム、ミャンマー、モンゴル、ラオス、アフガニスタン、バングラデシュ、ブータン、キルギスタン、ネパール、パキスタン、スリランカ、タジキスタン、ウズベキスタン
アフリカ及び中近東:	コンゴ共和国、エリトリア、エチオピア、ケニア、ルワンダ、ソマリア、ガーナ、タンザニア、ウガンダ、ブルキナファソ、カーボベルデ共和国、ガンビア、スーダン、ギニア、コートジボワール、リベリア、マリ、モーリタニア、ニジェール、ナイジェリア、セネガル、シエラリオン共和国、トーゴ、イラン、イラク、イスラエル、レバノン、モロッコ、パレスチナ自治区、シリア、ヨルダン川西岸地区、イエメン、アンゴラ、ボツワナ、レソト、マラウイ、モザンビーク、南アフリカ共和国、ザンビア、ジンバブエ

\* 日本の支援地は赤字にて記載。

# 本日のご報告の流れ

---

1. なぜ、子どもの保護が必要なのか？
2. Save the ChildrenによるGCRに関する提言
3. 子ども保護の強化に向けた提言
4. GCRに期待すること

# 1.なぜ、子どもの保護が必要なのか？

2017年12月の時点で、  
レバノンにおいて避難生活を送る難民登録者のうち、  
**80.9%**  
が女性と子どもである。



UNHCR. (2017, December). Syria Regional Refugee Response data portal

# 1.なぜ、子どもの保護が必要なのか？

2017年に国際機関が行った調査によると、

**76%**

のレバノンに居住するシリア難民が、貧困ライン  
(1日3.84USD) 以下の生活を送っているとされる。

同調査では、

2011年以降、レバノンのシリア難民の家庭で生まれた  
130,000人の子どものうち、

**83%**

が、出生登録を持たないとしている。

UNHCR, UNICEF, & WFP. (2017).  
Vulnerability assessment of Syrian refugees in Lebanon 2017.

# 1.なぜ、子どもの保護が必要なのか？



**二重苦（紛争と避難生活の長期化）⇒  
脆弱な存在である子どもたちが子どもの保護の問題の被害に遭う。**

# 1.なぜ、子どもの保護が必要なのか？

---

## 10代の子どもたちの声

『外には誰がいるか分からないから、外出すらできない。』

『誰も信頼できない。』

『自分たちは、開かれた刑務所にいるようなもの。』

**⇒子ども期、発達の機会を喪失させられる子ども  
子ども保護は社会の責任**

# 1.なぜ、子どもの保護が必要なのか？

子どもたちが守られる環境を作る

子どもの保護の問題への  
**対処**

子どもの保護の問題の  
**予防**



## 2. Save the ChildrenによるGCRに関する提言

---

- 1) 教育へのアクセス向上
- 2) **子どもの最善の利益に配慮した子ども保護の強化**
- 3) 恒久的解決策の担保
- 4) 説明責任および責任分担のメカニズム強化

### 3. 子ども保護の強化に向けた提言

---

#### 【国家や国際社会に対して】

- 子どもの最善の利益を考慮すること。
- 国家による、子どものための社会福祉支援の対象を難民にまで拡充していくこと。
- 国境を越えたとしても、継ぎ目ない子ども保護の支援を提供すること。

#### 《事例》

レバノン政府は、虐待や搾取の被害に遭った子どもへの社会福祉支援の対象に、難民を含めている。

### 3. 子ども保護の強化に向けた提言

---

#### 【地域社会や家庭に対して】

■ 両親と離別した子どもたちが、家庭的な環境での養育を受けられるように支援すること。

親族や里親による養育は、これに含まれる。

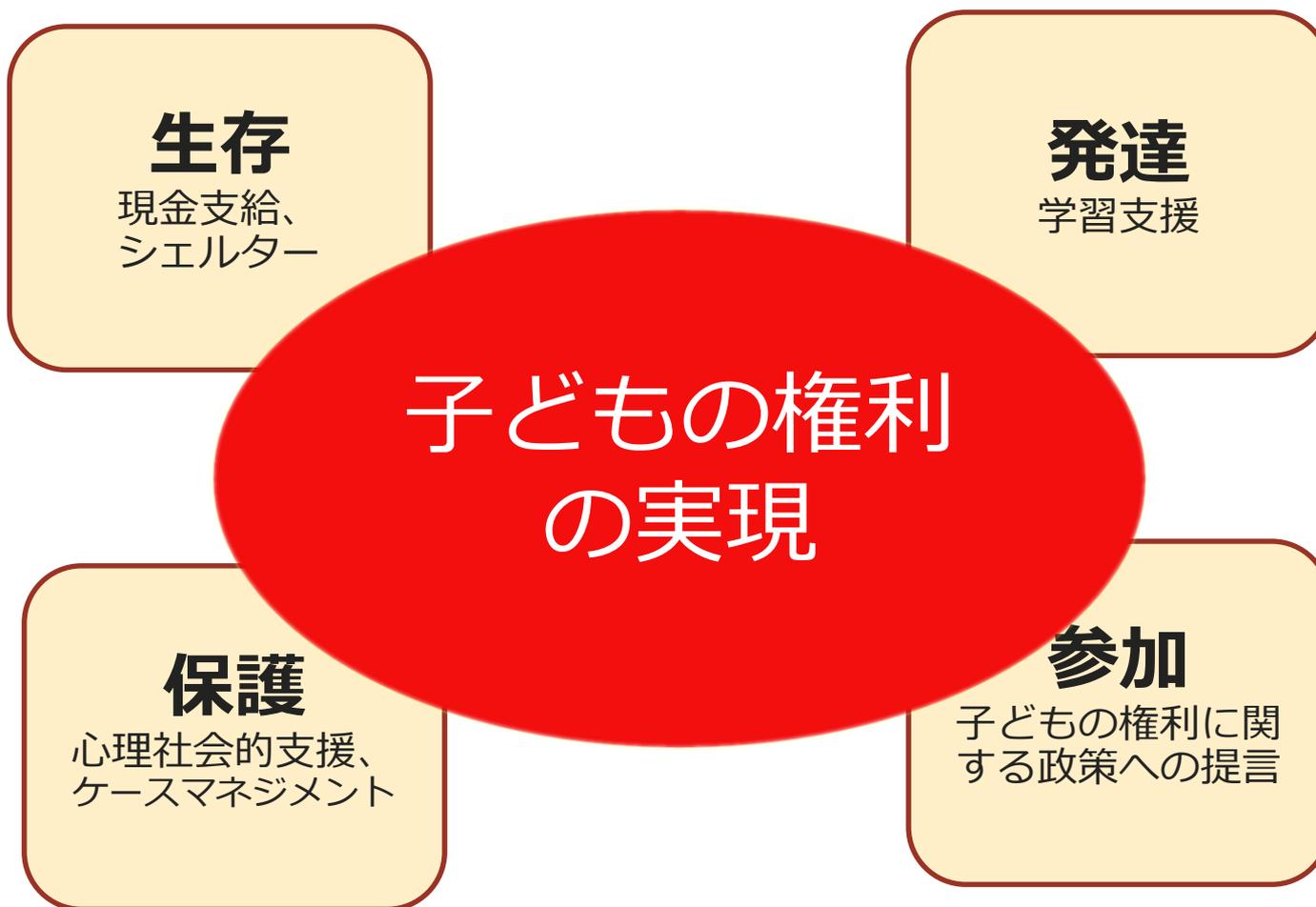
■ 子どもたちが、適切な支援を受けられるよう地域において子どもの見守りを強化すること。

#### 《事例》

レバノンにおけるシリア難民の集住地域においては、養育者や地域社会が、子どもの保護の推進に重要な役割を果たしている。

### 3. 子ども保護の強化に向けた提言

#### レバノンにおけるSCの取り組み



### 3. 子ども保護の強化に向けた提言

#### レバノンにおいてSCJが実施する子ども保護事業の概要

**事業名：**レバノンにおけるシリア難民の子ども保護事業

\*この事業は、ジャパン・プラットフォームの助成により実施されています。

**期間：**2017年7月1日より現在実施中

**事業対象地域：**南レバノン県サイダ郡における難民集住地域(5か所)

**目的：**南レバノン県のシリア難民集住地域において、子ども保護の活動が実施され子どもたちが暴力や搾取の被害から守られるようになる。

**概要：**シリア難民の子どもたちは、家庭や避難先のコミュニティにおいて、暴力、児童労働、早婚などの子どもの保護の問題の被害に遭っている。当事業では、子どもたちがこのような問題の被害から守られるよう、下記の2つの活動を行っている：

- (1)保護の問題の被害に遭った子どもへのケースマネジメント(**対処**)
- (2)子どもの保護の問題に関する啓発活動(**予防**)

## 4. GCRに対する期待

---

- 難民の総人口に占める18歳未満の子どもの割合は50%を超えるといわれる。  
⇒子どもの保護を含む、難民の子どもの権利の推進を優先事項に。
- 個別支援は重要だが、難民自身の相互扶助のシステムを壊さないようにすること。

## 4. GCRに対する期待



**難民支援に責任を持つ、全てのアクターが、効果的な支援の在り方を検討し、協働すること。**

# ありがとうございました

---



**難民の子どもたちが安心して暮らせるように**

# 参考：ケースマネジメント実施事例

## 児童労働の事例

サイダ郡のシリア難民集住地域に暮らす10代の少年は、山間部で野菜を収穫し、路上販売している。親は健康で就労可能である。

① 被害状況  
問題の調査

② 支援計画策定

③ 支援提供

④ モニタリング/  
フォローアップ

⑤ 終結

全ての過程において、当会  
ケースワーカーが監督・指導を実施

支援計画に定めた頻度に則り家庭  
訪問を実施、必要に応じ計画改訂

子ども保護グループ

子ども、及び  
家庭の状況を  
情報収集

聴き取り  
フォーム

合意

支援計画  
策定

支援計画  
フォーム

合意

学校との調整

通学のための  
交通費補助

児童労働が  
子どもに与える  
影響を親に啓発

問題などに  
関する情報共有

計画への  
意見を表明

子どもや親との面談では、当事者  
との信頼関係を構築して実施

学校訪問・  
交通費受領

子どもが学ぶ  
重要性を理解

子どもの通学

子どもの通学を  
支援

子どもが学習  
環境に定着

世帯訪問を  
通じた状況確認

モニタリング  
フォーム

合意

改善を確認し  
終了

終結  
フォーム